

対話「私が生まれたとき」神戸

25年あと(未来)の記憶

Memories of the future, 25 years back

Dialogue-Kobe "When I was born"

長沢 秀之

2019年11月23日(土)―2020年2月16日(日)

原爆の図 丸木美術館

埼玉県東松山市下唐子1401 TEL 0493-22-3266

2020年1月17日は、阪神淡路大震災から25年という節目にあたります。

長沢秀之は、下層に描かれた像の上に短い筆致で絵具を塗り重ねる油彩画のシリーズで知られる画家で、絵の具の重なりに時間の重なりを見たとて制作をしてきました。2014年に丸木美術館で発表した「大きいゴジラ、小さいゴジラ」は1954年の映画『ゴジラ』を大きいゴジラとし、2011年の福島第一原発事故によって無数の小さいゴジラが発生したとするもので、独自のアプローチで過去の歴史と記憶を見つめる制作活動を行ってきました。

対話「私が生まれたとき」シリーズは2015年に始まり、2017年の奄美編を経て今回の神戸編につながっています。長沢にとって「対話」とは死者との対話にほかなりません。しかしその死者とは生者でもあり、現在に生きるわたしたちをもさします。それはドローイングすることのなかに現われてくるものです。

神戸編では、その土地に住んでいるひとに「私が生まれたとき」ではじまる文章と関連する写真を提供してもらい、その写真をもとに描いたドローイングや絵と文章を組み合わせ展示します。震災のただ中にいたひと、そのときまだ生まれてないひと、多様なひとのイメージが、過去、現在、未来という直線的な時間軸を解きほぐし、ひとの記憶と思い起こすことによって生まれるあらたな時間を提示します。



…春の日に祖母はこの世を去った 2019年、ドローイング



1983年、手 F10号, 2019年, 油彩, キャンバス

長沢 秀之

1947年埼玉県生まれ、武蔵野美術大学卒業。現在、武蔵野美術大学名誉教授、神戸芸術工科大学客員教授。1980年代後半から「風景—〇〇」と名づけられた一連の絵画を発表。主な展覧会として「現代美術への視点—絵画唯一なるもの」東京国立近代美術館(1995)「呼吸する風景」埼玉県立近代美術館(1999)「第五福竜丸ゴジラ」展原爆の図丸木美術館(2014)「未来の幽霊—長沢秀之展」武蔵野美術大学美術館(2017)など。

会期中のイベント

11月23日[土]14時 作家によるオープニングトーク

聞き手：岡村 幸宣(丸木美術館学芸員)

12月8日[日]14時 トーク「ひとの時間、地の時間」

ゲスト：市川 政憲(美術評論家)

1月19日[日]14時 トーク「からだと記憶」

ゲスト：服部 正(甲南大学文学部教授)

※いずれも参加自由(入館料別途)

このチラシをお持ちの方は入館料が100円引きとなります

公益財団法人 原爆の図 丸木美術館

5月5日は開館記念日・8月6日はひろしま忌

[常設展] 「原爆の図」連作

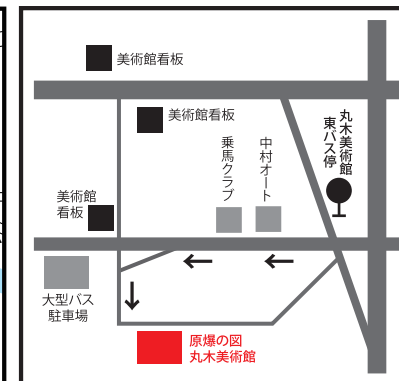
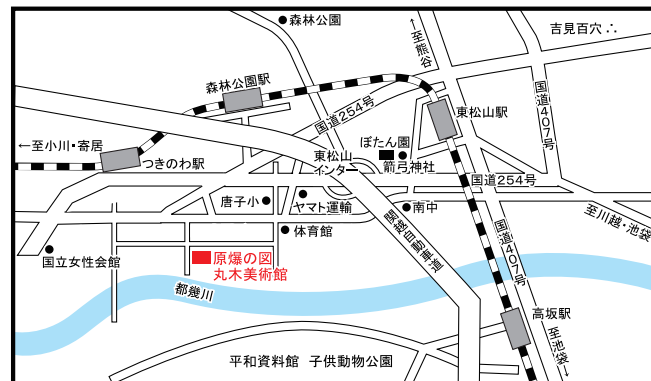
「水俣の図」
「南京大虐殺の図」
「アウシュビッツの図」
「水俣・原発・三里塚」
丸木スマ水彩画等

[開館時間] 午前9時～午後5時

(12月～2月は午前9時半～午後4時半)

[休館日] 月曜日(月曜祝日の場合は翌平日)、12/29-1/3

[入館料] 大人900円 中高生または18歳未満600円
小学生400円 団体(20名以上)、60歳以上、
チラシ持参者、比企地区在住者100円割引
障碍(しょうがい)のある方は半額



〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401
TEL 0493-22-3266 FAX 0493-24-8371

[URL] <http://www.aya.or.jp/~marukimsn/>
[Eメール] marukimsn@aya.or.jp

[交通] ●東武東上線森林公園駅
南口よりタクシー10分、徒歩50分
●東武東上線東松山駅より市内循環バス唐子コース(日祝運休)約15分
「丸木美術館東」下車徒歩15分
●関越自動車道
東松山インターより小川方面10分
●東武東上線つきのわ駅南口から徒歩27分、詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい

【市内循環バス時刻表(日祝運休)】

東松山駅東口発	丸木美術館東発	丸木美術館東行	東松山駅東口行
08:55			10:32
10:00			11:37
11:05			14:02
13:30			15:02
14:30			16:27
15:55			17:32